

小糸川水系における今後の河川整備の方向性

小糸川の現況特性

(1) 治水の現状

人見橋から松川橋の区間では、昭和 45 年の災害復旧助成事業で大規模な河川改修が実施されました。

整備状況が遅れている中流域で浸水被害が頻繁に発生しています。



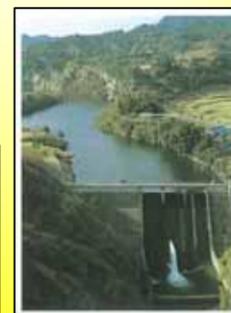
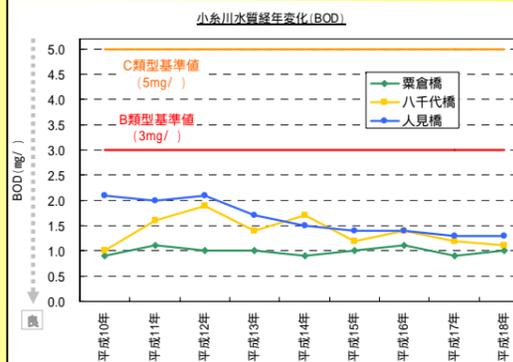
H18.12.27 洪水の状況 (中島地先)

(2) 自然環境の現状

水質は中流から上流にかけて県下でも有数の良好な水質を保っています。なお、BOD の環境基準値は全川にわたって満足されています。

現景観は周辺の住宅街や水田風景と調和した河川風景となっています。

海水域から汽水域、淡水域にそれぞれ生息する魚種が確認されています(ギバチやギンブナ等)。その他にハチクマ、サシバやコチドリ等の鳥類、タヌキやシカ等の哺乳類トカゲやヤマアカガエル等の爬虫類・両生類も生息しています。



豊英ダム (工業用水)
三島ダム (農業用水)

出典：千葉県企業庁君津工業用水道事務所事業概要



(3) 利水・親水利用の現状

農業用水と工業用水の供給を目的としているダムが2つ建設されています。

地域住民を対象にアユの放流等のイベントが定期的に開催されています。

流域・地域特性

小糸川流域内の下流の平野部では住宅地、それ以外の地域の殆どでは農地と林地が広がっています。

小糸川の河口付近の降水量は比較的少ないが、上流域の丘陵地では多いのが特徴です。

学識経験者・地元代表の意見

第1回流域懇談会における意見

川幅が狭いため水位の上昇が急である中流域の洪水対策を早期に講じる必要があります。

現状の自然環境を極力変えない治水事業の実施が重要です。

小糸川の水は農業用水や工業用水として利用されており、今後も利水事業と治水対策の両立を図る必要があります。

昔に比べ、近づきにくい川となっており、非常に残念です。

洪水時に竹などが多く流れてきます。それらの流木は河川水位を急に上昇させたり、河口の漁業に影響を与えたりしているため、対策が必要です。

最近ごみの不法投棄などが目立ち、河川利用者のマナーの向上を促す必要があります。

洪水ハザードマップの公表などを通じて、水害に対する意識を啓発する必要があります。

河川整備の方向性

(1) 治水事業について～洪水対策～

河道拡幅・河床掘削によって流下能力の向上を図ります。河道や河川管理施設等の適切な管理を行います。

(2) 自然環境について～水質や自然環境の保全・保護～

極力現在の河川環境の保全に配慮し、河川整備を検討します。河川周辺の景色と調和した現風景を極力維持します。自然の流れを活かした河川形状を保全します。水域と陸域の連続した生物の生息環境の創出を検討します。

(3) 利水について～水利用と水量～

動植物の生息や水質の維持に必要な水量を維持に努めます。適正な水利用が可能となるよう調整に努めます。

(4) 親水利用について～河川利用の促進～

昔のような“身近な河川”となるように、環境を維持します。河川へのアクセスを考慮した護岸を整備します。

(5) 維持管理について

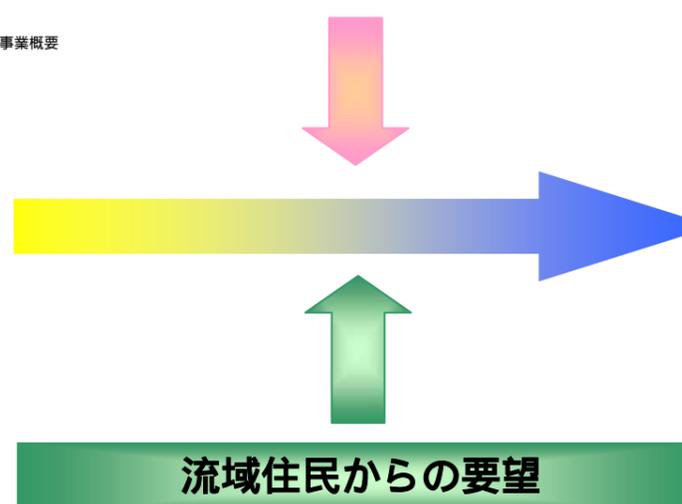
河川施設が適切に機能できるように除草・伐採を行います。地域住民とともに進めていく維持管理を目指します。

(6) 市民協働について～モラルの向上～

美化清掃、除草作業や県管理河川の公共施設の確認などの活動を地域住民とともに実施します(アダプトプログラム等)。河川利用者のマナー向上を図ります。

(7) 啓発・広報について～超過洪水対策～

地域の防災力を高めるために関係市町村と協力して、防災意識の啓発に努めます(ハザードマップ等)。災害時には必要な情報(水位等)を適切に発信していきます。



流域住民からの要望